

1 梨の生育状況

梨の結実は、いずれの品種も概ね良好となっていますが、長果枝の果実の大きさにばらつきが見られます。

黒星病の発生は、昨年同時期と比較してやや多い状況であることから今後の被害拡大に十分注意が必要です。また、芽基部病斑も散見されています。

虫害は、主要害虫（ハマキ、シンクイ、カメムシ）の発生は少ない状況です。

2 黒星病の発生状況

① 果実、葉等の発病状況

5月17日の発病状況調査結果では、主に「幸水」、「豊水」の果実等で発病が見られています。特に、「豊水」の病果果そう率は12.4%程度と昨年同時期と比較して、多い状況です。

表 H29黒星病発生状況(調査日:5月17日)

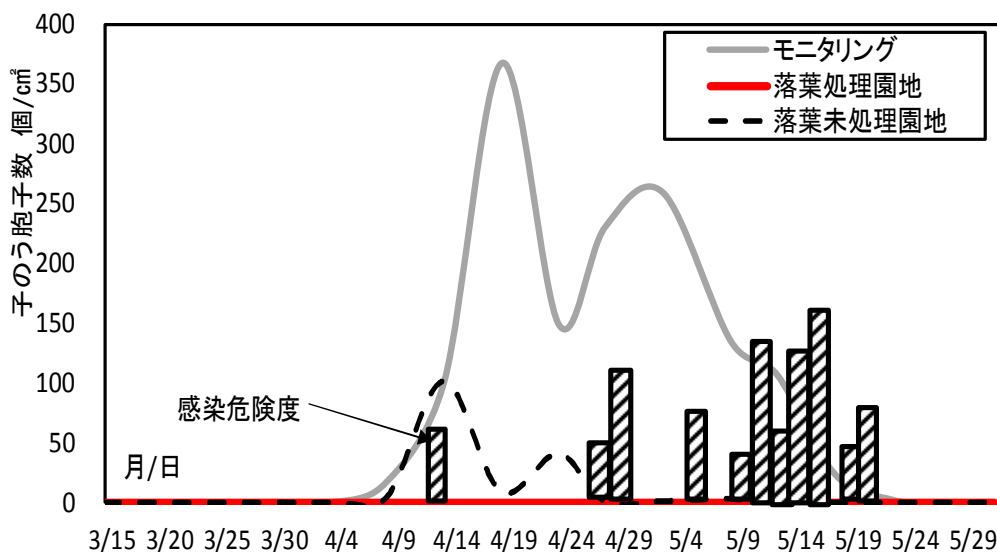
品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率			
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉 葉 (%)	葉柄 (%)
幸水	68	3.1	2.6	0.5	0.1	0.1
豊水	27	12.4	9.8	2.1	0.1	1.9
新高	14	1.1	0.7	0.3	0.0	0.1
あきづき	4	3.5	2.5	1.0	0.0	0.0
合計・平均	113	5.1	4.1	0.9	0.1	0.5

【昨年同時期】

表 H28黒星病発生状況(調査日:5月17日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率			
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉 葉 (%)	葉柄 (%)
幸水	68	5.9	2.4	2.5	0.0	1.5
豊水	27	5.9	2.8	1.9	0.1	2.5
新高	14	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4
あきづき	4	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0
合計・平均	113	5.0	2.1	2.0	0.0	1.6

② 1次感染源（子のう胞子の飛散）と感染危険度の関係



◎本年は、1次感源である落葉からの胞子飛散は4月中旬から始まり、飛散量は多い状況でした。
(胞子を意図的に飛散しやすくしたモニタリング調査結果)

◎黒星病の初発時期は、5月初旬でしたが、4月12～13日のまとまった雨により感染危険度が発生し、そのタイミングで感染した花が潜伏期間を経て幼果に現れたと推測されます。

◎なお、4月から今日まで、感染危険度の発生回数は、**11回**と昨年に比べ多く、胞子の飛散や芽基部病斑も多いことから、5月初旬に発病が見られた園地では、今後も罹病果実、葉の発生に注意が必要です。

☆重要☆：

- 落葉からの子のう胞子の飛散は終息しつつあり、今後の感染の原因は、発病している果実や葉、芽基部病斑からの胞子飛散です。
- これらを放置すると、降雨のたびに感染が広がる恐れがありますので、見つけ次第、速やかに除去し園地外で処分してください。
- 現在、比較的黒星病に感染しにくい生育ステージですが、7月初旬から再び「幸水」の果実に感染しやすい時期となります。

7月の発病を抑えるためには、6月末までにしっかり罹病果実、葉を取りきることが極めて重要です！！

3 これからの防除について

☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛けましょう

回数	散布月日	薬剤名と濃度	散布量	主な対象病害虫	防除実施日
8	5月28日～30日	ベルコートフロアブル 1,500倍 ファルコンフロアブル 6,000倍	300ℓ	黒星病、輪紋病 ハマキムシ類、ケムシ類	
9	6月7日～9日	オキシラン水和剤 500倍	300ℓ	黒星病、輪紋病	
10	6月17日～19日	キャプレート水和剤 600倍 スプラサイド水和剤 1,500倍	300ℓ	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、アブラムシ類 カメムシ類、クワコナカイガラムシ	
11	6月27日～29日	オキシラン水和剤 500倍 サムコルフロアブル 10 5,000倍	300ℓ	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、ケムシ類	
12	7月1日～3日	ダニゲッターフロアブル 2,000倍	400ℓ	ハダニ類、ニセガサビダニ類	

●殺ダニ剤の効果を十分発揮させるため、他の殺菌剤、殺虫剤と混用せず、単独散布してください
●散布前には必ず草刈りを実施しましょう

【注意】

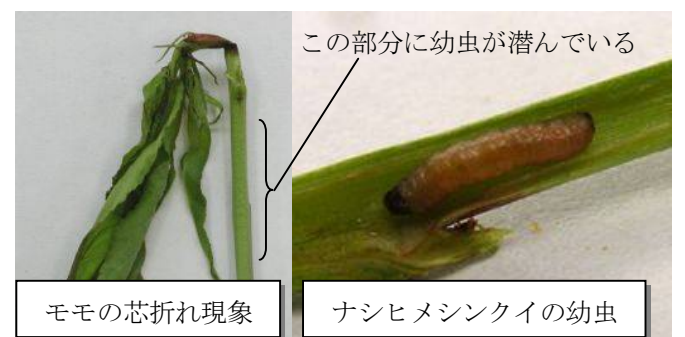
- ① 【11回目】から【12回目】の間隔が4日間となるので注意する。
- ② 【12回目】ダニゲッターフロアブルは、「遅効性」であるため、ハダニの密度が高まる前に散布する。
(ハダニ類の発生が早い場合は、アカリタッチ乳剤(2,000倍)を散布し、密度低下を図ってから「ダニゲッターフロアブル」を使用する。)

4 害虫対策について

●ナシヒメシンクイの耕種的防除対策

梨園に隣接するウメ、モモの新梢先端が折れて萎れている「芯折れ」が見られる場合には、これを切り取って処分して下さい。

●ハマキムシ類及びシンクイムシ類対策に
コンフューザーNの設置を！



5 摘果作業について

仕上げ摘果は6月20日(満開60日後)を終了の目安に！

摘果作業は、果実の大きさ、形、果軸の太さ、果実の向き(上向き果やサビダニの被害果は軸折れの恐れ!)等を考慮して進めましょう。

仕上げ摘果時の着果量(目安)

品種名	1㎡当たりの着果量	側枝長当たり(100~120cm)	1樹当たりの着果量(3間植の場合)
幸水	10~11果	5~6個	290~320果/樹
豊水	11~12果	6~7個	320~350果/樹
あきづき	11~12果	6~7個	320~350果/樹
新高	9~10果	4~5個	260~290果/樹

6 新梢管理(摘心)について

本年は、萎縮病の症状の樹や新梢伸長が緩慢、葉色が薄い等樹勢がやや弱い樹が散見されます。このため、摘心作業は適正な樹勢の樹を対象とした実施に止め、樹勢低下を助長させないように注意下さい。